

2016 年 1 月 29 日

戦略協議会、WG、分科会構成員・事務局各位

システム基盤技術検討会事務局

「超スマート社会サービスプラットフォーム」実現に向けた
システム連携のユースケース募集のお願い(案)

第 5 期科学技術基本計画第 2 章(2)「世界に先駆けた「超スマート社会」の実現(Society 5.0)」では、様々なシステムの連携協調を通じて新たな価値やサービスを産みだすことができるようにするためのプラットフォームを『超スマート社会サービスプラットフォーム』と名付け、第 5 期において段階的にその構築を進めることを謳っています。

システム基盤技術検討会(以下、検討会という。)では、これを受けて『超スマート社会サービスプラットフォーム』の構築に必要な技術や取組等の具体化について検討を進めようとしています。第 1 回の検討会では、「技術や取組等の具体化に当たっては、システム連携のユースケースに基づく議論が必要である」との議論となっており、検討会座長、副座長、事務局で検討の結果、ユースケースを拡充させ、それぞれの連携協調のポイントを整理する方針としました。

ユースケース拡充に当たっては、科学技術イノベーション総合戦略 2015(以下、総合戦略 2015 という。)記載の 11 システムの研究開発を具体的に推進している各戦略協議会、WG、分科会(以下、戦協等という。)のご協力が不可欠であると考え、下記の通りユースケースの提案を依頼させていただきます。

戦協等を開催しているお忙しい中での依頼となり大変恐縮ではございますが、本検討の結果は、各戦協等の今後の取組に必ずや貢献できるものと考えておりますので、何卒ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

依頼事項

1. 戦協等で所掌するシステムのなかで、所掌外のシステム(まだ具体化されていないシステムでも可)と連携することで既存のバリュー向上、もしくは新たなバリューが創出可能な例を、どのような情報がやり取りされるのかを含めてご提案ください。システムの連携とは、プラットフォーム、データ、サービス、各種基盤等を異なるシステム間で連携することを想定しています。
2. 所掌するシステムが所掌外のシステムのバリューを向上させる例もありましたらご提案ください。
 - 1、2 においては、総合戦略 2015 記載の 11 システムに限らず、そのサブシステムや様々なシステム連携のケースをご提案ください。
3. ご提案されるシステム連携を実現するために必要なリソース(どのような機能、アプリケーション、プラットフォームが必要か)についてもご提示ください。

ご提案は、別紙 1 の記載例を参考に記載いただき、末尾連絡先にメールにてご提出ください。なお、下記「ユースケース毎に検討する項目（案）」記載の各項目についても言及いただける場合は、別紙 1 の余白に記載いただけますと幸いです。

上記依頼については、戦協等の構成員にメール等にて任意で提案を依頼いただき、ご回答をシステム基盤技術検討会事務局まで回付いただけますよう、よろしく願います。（各戦略協議会、WG、分科会事務局にて回答を取りまとめて頂く必要はありません。個人のお立場でご提出いただいても結構でございます。）

提出は、2016 年 2 月 8 日（月） 17:00 迄にお願いします。

今後の予定

㊦ 2 月 8 日（月） 17:00 提案提出〆切

㊦ 2 月 12 日（金）14:30-16:30 第 3 回検討会

〆 提案されたユースケースの紹介、深掘りすべきユースケースの絞り込み

（ 2 月 12 日（金）～3 月 2 日（水）
絞り込んだユースケース毎に、検討項目 に沿って深堀 ）

㊦ 3 月 2 日（水） 14:00-16:00 第 4 回検討会

〆 ユースケースをまたぐ共通的な事項の抽出

〆 プラットフォーム構築に必要な技術的な課題、社会実装に向けた課題と留意事項の導出

㊦ 3 月 25 日（金）10:00-12:00 第 5 回検討会

〆 総合戦略 2016 に向けたとりまとめ

ユースケース毎に検討する項目（案）

- 1 . 創出される価値、顧客、顧客との関係
- 2 . チャンネル（価値を顧客に届ける手段）
- 3 . 収益の流れ
- 4 . 主要活動（価値を作り、提供するための活動）
- 5 . パートナー（単独か、誰かと組むのか）
- 6 . リソース（ビジネスモデルを実現するために必要な資源）
- 7 . コスト構造（何にどれくらいのコストがかかるのか）
- 8 . コアシステム間でやり取りされる情報、共有するデータ、また、そのデータの共有及び交換方法
- 9 . 国際競争力向上のための標準化すべき協調領域（プラットフォーム）
- 10 . 求められるセキュリティのレベルとその対応
- 11 . 当該プラットフォームを整備していく体制
- 12 . 社会実装までに整備すべき制度
- 13 . その他社会実装までに取り組むべき課題

以上

記載例

(別紙 1) ものづくりシステムの視点で高度道路交通システムと連携した場合の事例

連携するシステム	ものづくりシステムと高度道路交通システム
取組みの具体例 (どのような情報をやり取りするか)	① ものづくりシステムの出荷・調達計画情報と高度道路交通システムの車両走行情報等を連携させることで、複数社の配送効率化を可能とする。
具体的なバリュー	② 車両プローブ情報等から車両走行情報を得ることで、複数社の出荷・調達計画情報から最適な配送ルート選定が可能となり、“相乗り効果”により各社の配送コストの削減につながる。
システム連携に必要なとなるリソース (どのような機能、アプリケーション、プラットフォームが必要か)	③ 各社の出荷・調達計画情報 商品の種別、サイズ、重量、配送情報(配送時刻、配送元・先住所等)により、車両が効率よく配送可能となる

記載例

(別紙 1) 高度道路交通システムの視点でものづくりシステムと連携した場合の事例

連携するシステム	高度道路交通システムとものづくりシステム
取組みの具体例 (どのような情報をやり取りするか)	車両プローブ情報に加え、ものづくりのサプライチェーンの走行計画情報を把握することにより、高精度な渋滞予測を実現する。
具体的なバリュー	- 複数のサプライチェーンの走行計画情報を入手することにより、より高精度な渋滞予測が実現し、渋滞緩和、CO2 削減に貢献できる。 - 高精度な渋滞予測情報により、ものづくり企業にとっても配送遅延の削減につながる。
システム連携に必要なとなるリソース (どのような機能、アプリケーション、プラットフォームが必要か)	ダイナミックマップ 渋滞に大きな影響を与えるものづくり企業の出荷計画および現在の交通情報から、渋滞予測を地図上で把握でき、各車両が燃費効率よく走行できるルート情報を抽出できる。 ダイナミックマップ 高精度の絶対位置精度や三次元空間情報を持ち、静的情報・准静的情報・准動的情報・動的情報を組み込んだデジタル地図

(別紙 1)

連携するシステム	
取組みの具体例 (どのような情報を やり取りするか)	
具体的なバリュー	ž
システム連携に必要 となるリソース (ど のような機能、アプ リケーション、プラ ットフォームが必要 か)	

システム基盤技術検討会事務局

日高 浩太

長谷川 義之

市橋 保之

電話 : 03-6257-1335